LUZ の熊野古道案内

2009 年　10 月　上

10 月 1 日　～　12 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００９年　１０月

10 月　１日　今度は無形文化遺産か…
10 月　２日　長い祭りの始まり　木本神社秋の大祭　鈴上げ
10 月　３日　木本神社　吉田大明神
10 月　４日　熊野の信仰　南方気質
10 月　５日　大規模校　井戸小学校　運動会
10 月　６日　日本全国過疎地だらけ　バトンタッチ
10 月　７日　月例　広報熊野　１０月号より
10 月　８日　台風一過
10 月　９日　又、連休です
10 月１０日　世界遺産　被害発生　松本峠
10 月１１日　木本神社　秋の大祭　**1**　宵宮
10 月１２日　木本神社秋の大祭　２　宵宮・木本節

2009 年　10 月　01 日

熊野の旅　今度は無形文化遺産か…

世界遺産はユネスコが各国の申請を受けて審査して決めているものです。
「熊野古道」は『世界文化遺産』で「知床」は『世界自然遺産』ですね。
「国宝」「国立公園」みたいな感じでしょうかね。
今度ユネスコが考えた『無形文化遺産』は「無形文化財」に当たる物のようです。
もうすぐ決まるらしいですが、日本からはどっさり申請をだし、１３件もの登録が内定したそうです。
全世界で７５件でそのうち１３件が日本だそうです。
まさに、『世界遺産ラッシュ』ですね。

戦前から始まった「国立公園」に始まって、日本中にお墨付きをばら撒いてきた日本の観光行政も国力が少し付くと、世界のお墨付きを分捕ってくるようです。
『文化遺産』『自然遺産』『無形文化遺産』…日本中に『世界遺産が散らばります。
まさに、国立公園・国定公園・リゾート法・・国宝・無形文化財』指定などと一緒で、指定があっても『それがなんじゃ？』と言われる状態にするようです。

指定されるのは私でも知っている、『京都の祇園さん』もありますが、他の１２はどうも知らないやつのようです。
野次馬だけど文化人では無い私には縁の無い芸能関係のようです。
「雅楽」を始めとして、神楽なんてのが多いようで、日本地図で言うと、寒いところが多いようです。
南の方のおおらかでどうでも良い気質のところでは中々そうした芸能や民芸品が伝承されにくいようです。
「祇園祭の山鉾ー京都」　「アイヌの古式舞踊ー北海道」　「雅楽ー？？？」　「小千谷縮・越後上布ー新潟」　「石州半紙ー島根」　「早池峰神楽ー岩手」　「秋保の田植踊ー宮城」　「大日堂舞楽ー秋田」　「日立風流物ー茨城」　「チャッキラコー神奈川」　「題目立てー奈良」　「奥能登のあえのことー石川」　「こしき島のとしどんー鹿児島」
だ、そうです。
幾つご存知ですか？
これから先の申請は一ヶ国で幾つと制限しようと言う動きがあるらしいですが、ほうっておくと日本にはこんなのはごろごろあるでしょう。
盆踊り？だけでも、「郡上八幡」「小原風の盆」「阿波踊り」…熊野市にだって市の指定した無形文化財の「ジャジャック盆踊り」があり、日本の田舎にある集落の数だけありますね。
外人の目から見るとここの単調な「やっさのせ」でもものすごく新鮮で面白いらしいです。
何処が先に売り込んで見せちゃうかみたいな感じになりかねませんね。

にしても…

来年にはこれに指定された『世界無形文化遺産』の行事の時には、取材陣や野次馬や文化人が押しかけてとりあえずは人出が増えるでしょうね。
ポスターが話題になった祭り同様一時的にどっと人が来る…図式でしょう。
でも…
徳永の歌では無いですが…
祭りの人出から離れたり、人出が引いていった後の寂しさは計り知れないものですよね。
そして、残るのは…ゴミと受け入れ準備に使ったお金の借金だけ…
そうならないことを祈ります。

無形に近い『紀伊山地の霊場とその参詣道』と言う広大な世界遺産がありながら、その中には『無形文化遺産』に指定されるものがなかったんですね。
いや…日本中あまねく平等に散らばらせなくてはならないので…ここは遠慮しないとねえ…
すごい陳情合戦があったのでしょうし、これからもあるのでしょうね。

Tags:熊野市 世界遺産 モノクロ　　松本峠　　by **je2luz** | 2009-10-01 12:42

2009年　10月　02日

熊野の旅　長い祭りの始まり　木本神社秋の大祭　鈴上げ

今日は１０月２日、「花の窟神社」の「お綱掛け神事」の日です。
あいにく小雨が降ったり止んだりのすっきりしない天気です。写真が撮れそうにも無いので見に行きませんでした。
次は２月３日のはずです。

昨日１０月１日は、ここの氏神様の『木本神社』の秋の大祭の始まりの儀式、『鈴あげ』がありました。
氏子総代、祭りの祭典長、各町内の代表が集まり神前で祭りの無事を祈願する物です。

私の住む「新出町」は別格の役町になっているので、拝殿では神様から見て右側の半分を占領して代表だけではなく普通の町民も参加します。
この町に大人になってから４０年ほど住んでいますが、この「鈴あげ」に参加したのは２回ほど、昨夜も行きましたがＧパンにＴシャツの普段着で写真撮りに専念していました。
それでも、一応神様に気を使って神事の間はストロボを停止して撮影しました。
それがカメラマンのエチケットなんですけどね。
プレスなら失敗が許されないので最低限の枚数だけストロボを焚いても良いですけどね。

ただ困ったことに、今の電気式カメラやデジタルカメラはメインスイッチを切って入れなおすとモードが戻ってしまい内蔵ストロボが生き返ってしまうんですよね。
自動というものは不便な物です。
昨夜も雨模様だったのでコンパクトデジタルカメラの方を持って出たので、思うような設定は出来ないし、狭い拝殿でレンズの画角は狭いし…

拝殿の前では木本の太鼓グループが奉納太鼓を叩いていました。
見せる太鼓では無いらしくこんなスタイルで叩いていました。
太鼓は鳴っているし、神輿も出されて飾られているし、祭り提灯には火が入っているし、本町通りの行灯には火が入るし…
舞台装置はすっかり祭りムードなんですが、見物人が居ないんです。
関係者以外は１０人ほど…
これって、なんなのでしょうね。

私は子供の頃から『お祭り』は好きな方ではなかったですが、昔の日本人は大体において「お祭り好き」でしたよね。

私の隣の　おじさんは
神田の生まれで　ちゃきちゃき江戸っ子
お祭り騒ぎが大好きで・・・

まあ、神田や岸和田の辺りの生まれは今でもそんな人が多いとか言いますけどね。
「三社祭」にしろ「だんじり祭り」にしろ威勢が良く、見物人も多く、有名で…参加する若衆はヒーローで…
田舎の小さな祭りは、中々そうは行きませんね。

昨夜、開始を宣言した「木本神社大祭」は宵宮が１０月１０日、本祭り１０月１１日です。
１０日の夜と１１に日の昼間は木本町内の交通が一部制限されます。
それでも、昔のように『天下御免』で交通遮断することは無くなりました。
たまたまこちらに来られたら、覗いてみてください。
外人さんならすごく喜ぶのですけどねえ…
Tags:熊野市 昭和　by **je2luz** | 2009-10-02 12:40

2009 年　10 月　03 日

熊野の旅　木本神社　吉田大明神

木本神社は三つの社殿が並んでいます。
と、言っても小さな物ばかりで、拝殿は一つに収まっています。
真ん中は、まあ、ご主人様の神様の館で、「天照大神」の他、三人の神様が住んで居られるようです。そこへ、明治になってから「倉稲魂命」など三人の神様が転がり込んだようです。
これは明治４１年のことで、「神社合祀令」による物だそうです。
神社でもお寺でも人為的な部分が大きいですから、こんな風に変わってゆくものです。
そもそも、この木本神社も山の上から海岸までどう言う訳か降りてきた物です。
神様はありがたいかもしれませんが、神社そのものはさほどありがたいものではないですね。
おまけに、神社には遷宮なんてまるで戦後の建築行政のように「木造住宅は２５年」なんて決めちゃって、ものすごい資源の無駄遣いをしながら建て替えてきましたしね。これも、金の無い地方の鎮守様では住めなくなってから建て替える有様ですけどね。

まあ、真ん中の大きなマンションには大家さんの「天照大神」と６人の店子が住ん

でいます。
　大家さんちから見て右手には、戦没者を慰霊するところがあります。
　日露戦争以降の戦没者なのでしょうね。
　私の親父もここに居るのか、それとも、山間部の飛鳥神社に居るのか…
　檀家寺にも「忠魂碑」があるし、「靖国神社」はあるし、「身延山」にも永代供養の登録がされているし、津には「護国神社」があるし…
　階級の低い軍服を着てそんなところに呼び出される「召集兵」はかなわんでしょうね。

　そして、左手側には、おそらくここにしか無いであろうという神様が祀られています。
　「明治天皇」「乃木希典」「東郷平八郎」…色んな人が神様になっていますが、この人は他では神様にはなりにくいでしょう。
　安政二年（1855）に紀州藩領の村替えがあったとき、それを不服とした木本の住民などが騒ぎ、紀州藩勘定奉行の「吉田庄太夫」と言う御仁が住民の要望を聞き入れ、木本を紀州藩の本藩に残してくれました。
　これを独断でやったため、責任を取って本当に「腹を切った」のだそうです。
　このように木本にとって恩人なので「吉田大明神」として、氏神様に専用の祠を作ってお祀りしている物です。
　幕末に近く、実在の人物なので似顔絵が飾られています。
　「乃木将軍」や「東郷元帥」のように立派な物ではない、なんだか神様らしくない感じです。
　いつ描かれた物か知りませんが、神格化しようとはしなかったようです。

なんだか個人の家の御遺影と言った感じですね。
その時の名残なのでしょうね、わが町内の南のはずれ、変なところで、「紀州本藩」と「新宮領」の国境があります。
紀州藩に残ったのが良かったのか、新宮藩に入ったほうが良かったのかについての話は聞いたことがありません。
１０年余りで明治維新になったのですから、さほど影響はなかったでしょうけどね。

氏神様に祀るほどの御仁なのに、学校とかでは取り立てて教えることも無いようです。郷土の生んだ英雄ではなく、よそから来たえらい人…と言った感じなのでしょうね。
「かんなぎ」ほど可愛くも無し…「かみちゅー」ほど身近でも無し…
て…
忘れられかけた神様です。

Tags:熊野市 熊野古道 by **je2luz** | 2009-10-03 12:16

2009 年 10 月 04 日

熊野の旅　熊野の信仰　南方気質

古より、熊野の地は信仰の対象になってきました。
日本最古の神社と言われる『花の窟神社』もあります。
火の神を産んだ、「いざなぎ」「いざなみ」など神々が住んでいたようです。
仏教が入ってきてからでも、日本の仏教の総本山のような『高野山』も山を越えればすぐです。
「西国三十三箇所」のご詠歌の始まりも「紀伊の国那智山」です。
さぞかし、住民も信心深そうに思えるのですが…

高野山が近いのに、熊野市や南牟婁郡に関しては一番多いお寺は「曹洞宗」ですね。天理が近いので「天理教」も多いです。「神道」はほんの少し山間部などに残っているだけです。
農地も狭く貧しかった奥熊野の地では熊野三山や「那智山青岸渡寺」以外には大きなお寺もありません。
スポンサーになる貴族も豪族も大名も居なかったのですから、大きな社だとか伽藍を建立するなんて出来なかったのでしょうね。

同じように貧しかった寒い国々では、人々の暮らしの中に「信仰」とやらが深く根付いて、色々な行事が生まれ、伝えられています。
季節の節目節目には民間宗教的な行事があるようです。
むかし…私の祖父の時代などにはこの辺でも、そうした物があったようですが、戦後になるとどんどん消えて行ったようです。

昨夜は南牟婁郡御浜町市木地区では、「中秋の名月」と言うことで、『たばらせて』と言う行事が行われました。
キリスト教の「ハロウィン」の時に行われるのと同じように、子供たちが近所の家に出かけてお菓子などを貰ってくるものです。
元々は、お月様のために縁側にお供えしてあるものを貰ってくる…お下がりを貰う…「賜る」ものだったようです。
今では市木のあたりにしか無いようですが、昔は飛鳥などにもあったのだそうです。
昔はサトイモやサツマイモの茹でた物などを貰ってきたのだそうですが、今ではお供えとは別にお菓子を用意しているようです。
子供の数は減ったけど、親が車で送り迎えしたりするので行動半径がうんと広がっているようです。もちろん、昔のように全部の家が『名月』をお祭りしているわけでも無いし、お菓子をくれるわけでは無いらしいです。

「虫追い」は紀和町の丸山千枚田に残っているようです。
これも、あちこちで一杯合ったようですが消えてゆきました。
東北の方の「どんど焼き」のような注連縄を焼くようなものもあったそうです。
そんな式の民間信仰の行事は田舎なのにどんどんなくなってしまいました。
これも、南の方の南方気質のなせる業なのでしょうかね。

その割には新しいイベントは次々生まれます。
中々定着しないのも、「南方気質」でしょうか？
良く言えば、田舎の割りに仕来たりにうるさくなく、おおらかなのです。
悪く言えば、大雑把、いい加減なのでしょうかね。
この辺の言葉だと・・・
『大概でええぞ！』
『もう　ええぞ！』
『ええのにしとこら！』
『ええころ加減じゃのし！』
とか言うことなのでしょね。
便利な言葉です。

Tags:熊野市 昭和 世界遺産　　by **je2luz** | 2009-10-04 11:50

2009 年　10 月　05 日

熊野の旅　大規模校　井戸小学校　運動会

今の熊野市では二番目に大きい小学校の「熊野市立井戸小学校」は敷地。校舎ともに新しい物です。

旧井戸小学校は木造の良い校舎を持ったものでしたが、手狭だったため田んぼを埋め立てて周辺の住宅分譲地と一緒に造成した物です。

新しい基準に合わせて敷地を確保したので、小学校としてはものすごく広い運動場、体育館、多目的ホールなんてのを取り込んだ校舎…と、恵まれた学校です。

古い井戸小学校の頃は本来のこの小学校の校区になる井戸町赤坂・丸山・松原などと言う地区の子供は隣接の『木本小学校』に通学していました。

それもあって木本小学校が膨れ上がっていたのです。
古い町の木本小学校では子供の数がうんと減少し始め、先行き不安な時この井戸小学校が完成しました。
当初はお兄ちゃんやお姉ちゃんが木本小学校だから下の子も…等と言うので木本小学校を選ぶこともあったのですが、段々、設備の新しい本来の校区の井戸小学校へ入学する子が増えて行き、木本小学校の児童数減少に拍車をかけました。
その頃には木本小学校の校長などがどちらを選んでも良い家の子供の勧誘に足を運んだりしていた物です。

昨日、この横を通りかかったら運動会をやっていました。
今の児童数は約２００人ほどだそうです。
木本小学校の倍近く居ると言うことですが、ここも移転した頃に比べ減少しています。
それでも、見物人は少しだけ多かったですね。
一番驚いたのは、運動場の出口に露天商が一軒店開きしていたことです。

今流の出店ですが、なんとなく懐かしかったです。
昔はもっと泥臭いぼろっちい出店ですが、青切りみかん、綿飴、お面、駄菓子・・・

何軒か並んでいた物です。
　昭和の頃には運動会が祭りのような雰囲気をも持っていた時代もあった訳です。

　応援席の光景は何処でも同じようにお父さんお母さんのカメラの放列がしかれて居ます。
　おじいちゃんおばあちゃんもコンパクトデジタルカメラとか携帯電話で腕を伸ばして老眼でも見よいようなスタイル「で可愛い孫」を撮っている人も増えています。

　ワイドレンズなので背景の児童や観客席は芥子粒のようになっては居ますが、熊野市では大規模校でもこれくらいなのです。
　それでも、ダンスの時にはトラックの内側に格好つくだけの子供が踊っています。
　観客席も用意したテントからはみ出して応援しています。
　かけっこの時も何組もスタートします。
　当たり前のことなのですが、当たり前の運動会がここにはありました。
　つまり、普段でも、「当たり前の小学校」がこの位の規模ならあると言うことでしょうね。
　私にとっては「縄張りの外」的なところなので顔見知りの数も少なく、さすがにグランドに入っての撮影は出来ませんでした。
　それに、一般参加の種目がうんと少ないのも児童数のおかげでしょうね。
　山間部のように爺さん婆さんが疲れ果てるほど出なくて済んでいます。

Tags:熊野市 昭和　　by **je2luz** | 2009-10-05 11:48

2009 年　10 月　06 日

熊野の旅　日本全国過疎地だらけ　バトンタッチ

　平成１０年代後半になって「過疎地」は激減したのでしょうね。
　実態はどんどん進行しているのですが、過疎の村や町が大きなところに吸収合併されて、統計上の「過疎」の場所は減ったでしょう。
　私たちには、集落、集落も目に入りますから、「あそこは過疎が進んで、もう限界集落だなあ…」と感じますが、中央から見ると地方自治体単位の数字で見ますからね。
　熊野市も過疎地に準ずる自治体ですが、典型的な過疎地だった「紀和町」は消滅しましたからね。
　こんな風に３３００あった市町村が１０００ほど減りました。
　減った多くが『過疎指定の自治体』ですからね。

　日本だけではなく、世界中で人口の都市集中が進んでいます。
　農耕中心の社会構造だった頃には、流通部門や小さな工業的な部門以外、町に行っても仕事が多かったわけでもなかったのですが、産業革命の頃から段々様子が変わり、

工業と商業が経済と国を引っ張り出しました。
　百姓など田舎での生産者が段々割に合わなくなってきたのです。

　日本国はその国民の器用さと勤勉さで大きく発展したと言われていますが、世界の変遷の最先端を走っているような物です。
　この狭い国土で大勢の国民を養うためにはその道しかなかったでしょう。
　国民がのんびり田舎で平穏に生活していたら今の日本の繁栄はなかったのですからね。
　明治以来、ひたすらこの方向で国全体が走ってきたのですから、当然こうなってくるのです。
　まして、アメリカ流の経済原理が支配する世界では対策を打つと言っても大変でしょう。
　まさか、富の再配分のために社会主義国家を樹立するわけにも行かないでしょう。
　田舎では「錦の御旗」か「お題目」のように、『公共事業』を言いますが、そんな物で社会構造が変わるはずが無いのはこの何十年もの高速道路網の整備などで分かっているはずなんですけどねえ…
　まさに、洗脳教育が行き届いているようです。
　出来た物が何かを生むものでも無し…
　１０億１００億なんて金も一時的に動くだけ…
　それも、地元の土建屋や土方に入るわけではなく、ゼネコンとか重機メーカーとかの大手に戻って行くだけです。

　日本がもう少しして「貧乏な国」に戻ったら、田舎で生活することのメリットが大きく感じるようになるかもしれませんね。
　その頃になると、まともに働きもしないで六本木やお台場界隈で浮かれる種族が居なくなりますからね。
　と言うより、そんなことやってられなくなり、しっかり働いて飯を食わせてくれる田舎の男の方がたくましく見えますからね。
　もっとも、私などは田舎で暮らしていてもちっともたくましくは無いですが…

　世界観・人生観まで変えないと、社会構造、経済構造は中々変わらないでしょう。
　それは「学校教育」なんて一部の問題ではないのでしょう。
　家庭の中の会話などから、テレビの放送…全般が根本的に変わらないとね。
　田舎でも、『もっと勉強しなさい』、『頑張って高校へ行きなさい』、『大学に行かなくっては…』と言って子供を育てているのですからね。
　この、明治以来の教育風土は変わっては居ませんね。

　私は林家の次男坊です。とりあえず私の代は林業で食べられる見込みがあったのですが、今のように材木が落ち込まなくても、子供から孫まで「林業」では食えないのが分かって居ました。ここで食うなら「兼業林家」で無いとやってゆけないのです。
　まあ、私は祖父が植えた山を食ってゆく「キクイムシ」でやってゆけても、私が切って跡に植えた木は子供の代では切れませんからね。

私は「キクイムシ」でも跡に木を植えてあります。
しかし、最早、山からは食い扶持も取れませんから伐採跡に植林が成されなくなっています。
防災上は雑木山のほうが良いのですが、雑木山に戻る前に山が抜けてもおかしくないのです。
それでも、国民の大部分は、「安けりゃあ、盗伐の木でも何でも良い」と、再生産も無い外材を使いますね。
他の物でも同じです。
「安けりゃあ良い」…そんな感覚をも変えないと、過疎の解決の入り口にも行かないはずなんですけどね。

これはおとといの運動会でのバトンリレーですが、田舎では世代間のバトンリレーが出来なくなっています。
昔のように、「立身出世」を口にすることも減りましたが、それに似た感覚が親にもありますからね。
リレーではなく単独の徒競走の出発点が田舎だったのです。
でも、そろそろスタートラインに立つ走者が居なくなってきています。

日本は世界最速で人口減少に突っ込むのだそうですね。
それでも、高速道路は田舎まで引っ張るのだそうです。
「狭い日本、そんなに急いで何処へ行く！」　なんてのがありましたね。

Tags:熊野市 昭和 紀和町

by **je2luz** | 2009-10-06

2009 年　10 月　07 日

熊野の旅　月例　広報熊野　１０月号より

早いものでもう一ヶ月たってしまいました。
何もしないうちに人生の一ヶ月が過ぎてゆく…
困った物です。

人の動き　　平成２１年９月１日現在

人口	２０．３８６	(-26)
男	９．４９１	(-8)
女	１０．８９５	(-18)
世帯数	１０．０２４	(+３)

なんとなんと…　世帯数が増えました！
なぜでしょうね？
でも、数字上は＋です。

１０月３日とやらに、熊野市駅前の「熊野市文化交流センター」とやらがオープンしたのだそうです。
知らなかった…

で…
というわけでしょうか、芸術の秋、文化の秋…
熊野市文化事業イベントカレンダーが載っています。

１０月１０日　熊野市生涯学習事業　「どむならん」公演　文化交流センター
１０月１５日　藤井美智カルテット　JAZZ ライブ　文化交流センター
１０月２３～２５日　パリから熊野へ　熊野染師四代目奥田祐斎ノ世界　文化交流センター
１０月３１日　親子で学ぼう！プリザーブドフラワー・アレンジメント教室　文化交流センター
１１月１日　桂三枝独演会「聞きにいらしゃーい」　熊野市民会館
１１月３日　紀和ふるさとまつり　紀和コミュニティセンター

問い合わせは　熊野市教育委員会　熊野市役所　0597-89-4111　内線 415
これだけが載っています。
毎年やっている「市民文化祭」とやらの記載はありませんね。

近々、取材に行ってきますが、この「熊野市文化交流センター」という熊野市駅前に出来た大きな会館は、基本的には、『市立図書館』なのです。
ちょいと「交流ホール」という小型のイベントホールと「多目的ホール」とかを抱き込んで規模を拡大した物です。

市民会館は古いですが定員７００名ほどのホールとか中会議室などを備えたものは別にあります。
１８０人がゆったりと読書できる立派な図書館です。
ホールは１４０席だそうです。

とにかく、『交流』というのが好きな熊野市ですね。
７月にオープンしたリゾートは『紀南中核的交流施設』ですからね。

今までの熊野市立図書館は、図書室レベルでした。
これで、『市』らしくなったのでしょう。
しかし、１０倍ほどに広がった図書館、書架を埋めるのは大変でしょうね。

図書館の独自事業では
　読書教室　１０月１０日、２４日　14：00～15：00
　古典文学鑑賞講座　１０月２１日　19：30～21：00
というのがあるそうです。

『新刊案内』には三冊の名前とその他７冊…とあります。

こりゃあ、１００年経っても書架は埋まらないでしょう。
いくら補助金で返す金が少ないからって…ねえ…
こんな箱物って、意外と地元の金が要らないからくりがあるんですよ。
こうして、国民の借金が何億か増えました。
全国の皆さん、ありがとうございます。

Tags:熊野市 JR 紀勢本線　　熊野市立図書館　　by **je2luz** | 2009-10-07 10:52

2009 年　10 月　08 日

熊野の旅　台風一過

台風１８号は午前二時過ぎにこのすぐ沖を通過してゆきました。
ほぼ、正面、南側から直進してくる台風なので、近付く間の風向きが安定しません。少しずつぶれます。
大きさは普通より少し大きめ程度です。
昔の１３号とか伊勢湾とか２回の１９号とかを体感している者にとっては、決して強力な台風ではないのが来る前から分かっていました。
波は静か、近付いても地鳴りもしない…
そんなに大きなエネルギーは無いと言う証拠なのです。
人間だからこそ、熊野灘と向かい合って生きてきたからこそ感じられるものです。
昔の気象台にはこんな人間が一杯いたのです。気圧計が変わる前に分かる人が…
でも、東京の偉い人を説得できるデータが無いんですよね。
今の気象庁はデータだけ…
おまけに台風のデータは一時間に一回だけ、それも５０分遅れで発表するのですよ。
遠くの海の上にいる時はそれで良いですけど、目の前に来ても、上陸しても同じなんです。
間違えて計算したデータを出すのが怖いんでしょうかね。
まさか、紙と鉛筆で計算しているのではないでしょうね？
でも、５０分も遅らせたらあまり役に立たないんですよね。
そのデータをいただいて、ひたすら繰り返すテレビの台風予想はほぼ１時間半から２時間後れのニュースなんです。
困った物ですね。
四方から風を受ける我が家でいると、近付いた台風の位置は体感できます。

今回の１８号台風は、「返しの風」が強かったですね。
来る時の雨は大したことなかったのに、本来空っ風になるはずの返しの風が猛烈な雨とともに吹きました。
建築以来３７年・・・
海の側のサッシから雨水が風で押されてオーバーフローした事は何度もありますが、裏側、西向きの窓から風圧で水が逆流したのは初めてです。

普段と違う方向からの風が強いと、風速の割りに倒れる木などが増えますね。
木も逆から吹かれるのには慣れていないので、根の張り方が違うのでしょうね。
屋根瓦も海岸筋では東側の家のが道に落ちるのですが、今回は西側の家の瓦も美智に落ちていました。

　それに、風台風はこんなものも空から降らせますからね。
　雨台風は来てからでも外の見回りが出来ますが、風台風は外に出るのは命に関わります。
　庭で音がしようが、何かが当たろうが、自分ちのバケツが飛んで行く音がしようがひたすら家の中で無事を祈るしかないのです。
　こんなのが降ってきたら、ヘルメットなんてほとんど役に立ちませんからね。
　頑丈な鉄骨と屋根のおかげで私の車は無事でした。

　あちこち細かい被害は出ていますが、人的な被害の出ない地域なのでその面では安心です。
　いや…
　安心できないかな？
　わざわざ、波を見に行ったり、川を見に行く人もこの辺でも居ますからね。
　今回は夜でしたからその人種は出なかったでしょうけどね。

　波は堤防までも届かなかったですね。
　堤防に当たると、我が家が地震並みに揺れますから…
　道路はほとんど全部通行止めになりましたが、やはり熊野は雨に強いです。
　洪水で流されたり、土石流で埋もれてしまう　旅館は無いと思います。
　こちらに来れれて台風に出くわしても、安心して中に篭っていて下さい。
　よく降るし、よく吹きますが、命までくれとは言いませんからね。

Tags:熊野市 台風 昭和　　by **je2luz** | 2009-10-08 08:57

2009 年　10 月　09 日

熊野の旅　又、連休です

　昔なら、この秋の行楽シーズンに連休があると、マスコミも騒ぐし、子供の居る家族「ニューファミリー」なんてのがそわそわした物です。

　しかし、週休二日制が普及し、「国民の休日に関する法律」とやらが、どんどん改定され、こじ付けみたいな休みを増やして連休を大量に生み出してからは、今度の連休などは、あまり、「連休」扱いされませんね。

　それでも、この「体育の日」は昭和３９年の「東京オリンピック」を記念して出来た今となっては古いほうの休日です。

　ただ…

　本来は１０月１０日のはずが、ご都合主義で動き回るようになってしまいましたね。

　オリンピック記念だった休日を動き回らせるくらいだから、オリンピックの女神が日本に来たがらないのかもしれません。

　台風は週の真ん中に通過し終わって、この連休の天気は大丈夫なようです。

　昨日は「台風一過」の秋晴れでしたが、今日は少々雲が厚いですけどね…

　これが、我が家の傍の「行政無線・広報熊野」の拡声器です。

　木本町の国道４２号線の脇に立っていて、国道沿いをカバーしています。

　スピーカーの無い方向に、「七里御浜」があります。

　国道の対面の堤防外には民家が無いので、スピーカーが向けられていないのです。

　風向きによって聞こえ方が随分違う音声ですが、浜に居ても一応聞こえます。

　今は、サイレンもこのスピーカーから流れます。

　津波も『警報』になると、「サイレン」が流されます。

　「サイレン」と言う物は、「空襲警報」同様、異常事態、緊急事態の発生を知らせるものです。

　旅行者にとっても生命に関わる場合もあるものです。

　「ピン・ポン・ポーン』なんてのではじめる放送はほとんど地元住民向けですが、「サイレン」だけは別物です。

ことに、海岸に出て七里御浜の景色と潮風を楽しんでいる時にサイレンが鳴ったら、すぐに堤防の内側に上がることを考えてください。
遊んでいると聞こえなかったり、聞こえてもたかをくくってしまったり…
まあ、１００年とかに一度の災難かもしれませんけどね。
熊野の海から船出すれば、『極楽浄土』『補陀洛・ふだらく』に行けるそうですから、津波で生身のままさらわれても、他所でさらわれるよりは極楽へ行く確率は高いでしょうけどね。

秋祭りもこの動き回るお休みに合わせる様になったところも多いでしょうね。
「木本神社秋の大祭」も臨機応変、動き回るようになりました。
昔は祭りになれば学校も職場もお休みになったのですが、そんな時代でも無いですからね。
私が子供の頃…半世紀ほど前だと小さなお寺の「花祭り」でも小学校は半日でした。
その代わり土曜日も学校に行っていましたけどね。
いかがですか？
久しぶりに「故郷の祭り」を見に帰られては…
同じ神社の境内が子供の頃より狭く感じるでしょう。
それに、賑わいが減ったと感じるお祭りが多いと思いますよ。
でも、懐かしい顔もちらほら見られるヵも知れません。
「ディズニーランド」「USJ」「大江戸温泉村」などだけが、行楽地では無いですよ。

Tags:熊野市 熊野古道 七里御浜 by **je2luz** | 2009-10-09 13:20

2009 年 10 月 10 日

熊野の旅　世界遺産　被害発生　松本峠

世界遺産・熊野古道『松本峠』が通行止めになりました。
いつも写真に写っている杉の木が倒れたそうです。
道の脇の山林を伐採したことと、今度の１８号台風の返しの風が強かったこともあるでしょうね。
まだ、現場に行っていませんが、道の傍、下側の木が寝言ひっくり返ってしまったようです。
石畳の一緒に掘り起こしてしまったようですから、木をどけるだけでは済まないでしょう。
こうした形での倒木は良く起きることなのです。
山林を伐採して「残し木」と言う形で大きな木を次の５０年８０年のために残すと、

風が当たるようになって、木が耐えられなくなって根こと倒れるのです。
　木は環境に応じて地上部も根っこも作ってゆきますから、そうした急激な変化の後に台風など来ると耐えられないのです。
　今回も、道の方の部分の狭いところに大きな木が立ち並んでいるところに、南から西の風が入りよくなったので倒されたのでしょうね。
　以前の二回の１９号よりははるかに弱かったはずの今回の台風でもこうしたことが起きます。
　倒れた木を撤去し、石畳の修復と根っこの撤去斜面の復旧…少し時間が掛かりそうです。
　最初のうちは人間が通れても「通行止め」にすると思います。
　「大吹峠」でも倒木が出たそうですが、おそらくそちらは撤去だけで済むでしょうから、すぐに通れるようにはなると思います。

　近いうちに見に行ってきます。
　通れるようになったら、又、ここに載せます。
　普通だとセメントで固めた防災工事をするのですが、まさかのまさか、そんな事はしないはずなんですけどね。
Tags:世界遺産 熊野古道 モノクロ　　by **je2luz** | 2009-10-10 10:52

2009年　10月　11日

熊野の旅　木本神社　秋の大祭　1　宵宮

　木本神社秋の大祭の宵宮（よみや）が昨夜行われました。
　昼間は随分暑かったのですが、夜になるとかなり冷えていました。
　酒を飲みながら参加している男共を始め出し物に参加している子供たちには丁度良い気候だったでしょう。

道端で見ている人たちには寒いようでした。

進行の遅い木本の祭りは今年もスローモーですね。
これでも昔よりは少し早くなってはいるのですけどね。
参加している人も、「遅すぎる」と言っているのに、不思議と早くなりません。

先頭のわが町「新出町」のダンジリが後ろに気を使って進まないのが第一原因なのですが、神社についてから、新出町の神楽を始め各町内の出し物が奉納行事をやるのでどんどん後につかえるのです。
まあ、スムーズに進行しすぎたのでは簡単すぎて駄目なんでしょうね。

これと同じ行列が本祭りの朝から一日かけて町内を巡ります。
酒飲み連中は、この「宵宮」の酒が抜けないまま明日の朝を迎え、朝から酒を飲みながら夕方まで町内を巡るのですから、「出来上がる」を通り越す人が出ます。
神輿の方は宵宮では出番は無いのですが、神社の脇に用意された席で、宵宮中飲んでいます。
そして、今日も朝からお昼まで「出立ちの酒」を飲ませます。
足腰が立たない担ぎ手も居ます。

本町通りの写真…
宵宮が終わって人気が無くなったのではなく、本町通りにはどう言う訳か「役町」がなく、出し物が無いので参加意識が乏しく、宵宮の時には、ちょうちんには火を点しますが、火が消えたようになるのです。

なぜ、木本の氏神様の祭りなのに、本町筋は端っこの「新出町」以外に何も参加する項目が無いのか分かりません。

と、言うことで、今日一日はこの長い祭りに付き合って写真を撮ってきます。

そうそう・・・
熊野古道・松本峠は通行止めの看板は出ていますが、一応、通れます。
復旧工事がはじめると、本格的に通行止めに成るかもしれませんが、ちょいと迂回路を作るかも知れませんね、
１０ｍほどの区間だけですから…
せっかく撮ってきた写真を消去してしまいました。

Tags:熊野市 熊野古道 by **je2luz** | 2009-10-11 09:52

2009 年 10 月 12 日

熊野の旅　木本神社秋の大祭　２　宵宮・木本節

熊野市の木本町には『木本節』と言う民謡があります。
民謡と言っても。そんなに古いものではなく、昭和２年（1927）に一般公募で歌詞を募集して作られた物です。それでも、８０年前と言うことです。
主は鬼ヶ城　雄雄しき姿　わたしゃ焦がれて　散る女波

ヨンヨイー ヨンヨイー フリコメサン

この民謡も昭和３０年代頃までは唄われることもあったのですが、段々、唄われなくなり、踊られなくなっていました。
昔は。この木本町も交通の要所、商業の中心として、少しは栄えたこともあり、芸者さんも居たのですから、こうした民謡も大切だったのです。

消えかけていた『木本節』の道中踊りが宵宮（よみや）で復活しました。
私が子供の頃には、芸者集などが、「本祭り」の日に本町通りを踊りながら練った物ですが、復活した道中踊りは「宵宮」の中で、親地町町内だけでした。
「保存会」？と「木本婦人会」の二つの団体が合同で踊っていましたから、人数も結構居ましたね。
こうしたお祭りには、「ソーラン」なんかよりはずっと似合いますね。

昔の道中踊りは『綺麗どころ』が踊りを先導していました。
今の『木本節道中踊り』は「おばやん」が先導しています。
でも、真ん中辺には『かわいいどころ』が踊ってくれていました。

「ソーラン現象」が嫌いな私にすると、こうして『普通』の民謡を踊っているこの方がずっと可愛くて、正常に見えます。

宵宮は見物人の少ないお祭りなのですが、「新出町・だんじり」が先発し、「宮」までのあいだに、各町内の出し物を順番に後ろにつけて進んで来、親地町の入り口、「笛吹き橋」のたもと、「木本町１番地」、「熊野古道・松本峠上り口」に差し掛かるときには、「栄町・よいや」「井筒町・子供みこし」「新田・元宮太鼓」がそろいます。
ここから、神社までの 300ｍほどには「木本節・道中踊りと「親地町・六方」が合流します。
ここは木本発祥の地で、元来は漁師町です。
古い町なので、道幅も狭く、どの出し物も美智一杯になるのですが、ここは見物人も出てきて、宵宮では見せ場になります。
住民も出てきてくれず、見る人の居ない町中を行進する祭り屋台などと言うのは、考えてみると寂しい物です。

Tags:熊野市 昭和 熊野古道

by **je2luz** | 2009-10-12 10:38